

学生提案成果報告⑥

動画を使った大谷プロモーション事業

—大谷地区の新たな観光資源の発掘と発信—

宇都宮共和大学シティライフ学部 3年西山ゼミ 大熊和輝（おおくま かずき）

吉岡真一 関 俊太 薄井和翔 阿久津和彦

【概要】本プロジェクトは、観光地として脚光を浴びつつある宇都宮市大谷地区において、大谷石以外の観光資源の発掘とその発信を、動画制作を用いて行うものである。大谷地区では、大谷石がつくり出す独特の景観により全国から観光客が訪れている。ところが大谷石に特化するあまり、それ以外の観光資源に乏しいのが現状である。一方、大谷地区には草木が多い茂り、そこには野生動物や虫が多く生息している。それらを活かし、SDGsなどの教育的な視点から大谷地区の違った魅力を発信する。同時に、既存の観光資源についても、地元ガイドと連携し紹介動画を作成する。

【栃木を元気にするには】大谷地区は、栃木県においてかけがえのない観光資源である。ところが大谷石だけに目を奪われ、依存するとかつての大陥没やパンデミックのような事態になった時、大きな打撃を受ける可能性がある。当地区における観光資源を様々な視点で発掘・発信することで、大谷地区を中心とする宇都宮市や県央地域の魅力が増すものとする。

1. 活動の背景と目的

発表者たちのプロジェクトである「大谷景観復活プロジェクト」は2018年より宇都宮市大谷地区において景観改善と空き地の利活用を行い、当地区の活性化を進めてきた。前年度、発表者たちの中心的事業であった空き地の除草作業を地元組織に移管し、空き地の利活用や他の地域資源の発掘に専念している。当地区の主要道路を外れると、まだまだ空き地には草木が覆い茂った場所が多くある。また、昨年度草刈りを行っている時に、大カマキリやナナフシなど街なかでは珍しい昆虫を多数見かけた。そこで、そうした自然を活かせる方法はないかと考えた。特に夏季、涼を求めて首都圏を中心に家族づれの観光客が多く訪れる。子ども達の様子をみてみると、主要観光施設では、飽きてしまい、つまらなそうにしている子どもも見受けられる。特に東京に住む子供たちにとっては、昆虫などに日常的に触れる機会が少ない。そうした子どもたちには、大谷地区に広がる草原や森、川に住む生き物たちは魅力的ではないかと考えた。

そこで本プロジェクトでは、大谷地区で厄介者と思われている草木、そしてそこに住む生き物たちを地域資源と捉え、動画共有サイトYouTubeなどで撮影、発信することで、当地区の新たな魅力の発掘と発信を目指す。なお、草木が繁茂する空き地は私有地であることから、道路沿いや河川（姿川）で採取できるものを対象とした（私有地にはかつて大谷石を採掘した立坑などがあり危険な場所もある）。

2. 大谷地区を対象とした生物に関する教育動画の制作

2020年度の大谷景観復活プロジェクトは、12月に終了したことから、次年度の活動について議論をはじめた。当初、子どもたちを大谷地区に呼び、昆虫採取や自然散策のイベントを計画していたが、コロナ禍や事故発生の可能性（交通事故、立坑への転落など）を考慮し、まず動画を制作し、発信することからはじめることとなった。

2021年2月から大谷地区や栃木県、茨城県をまわり、生き物の採取や動画撮影や編集の練習を繰り返した。また、なかがわ水遊園や栃木県立博物館に通い、飼育員や学芸員に対するヒアリング調査を行うなど、生き物について学習し、知識を深めていった。



写真1 制作・YouTubeにて発信している動画（一部）



写真2 8月に行った動画の撮影風景

写真3 制作した動画

本格的な動画撮影は、5月から開始した。「ネイチャーファイブz」というチーム名で主に、大熊と関が出演する番組を計6本制作、公開した（写真1）。例えば、「昆虫標本のための虫集め」や「【自由研究】標本づくりセミ編のはずがまさかの火事？」では、小学生の自由研究のための標本づくりを解説する動画である。また視聴者が飽きないように、笑える内容になるよう工夫している。

今後は許可をとった上で、地下採掘場跡地に生息する奇妙な生き物を撮影・採取したり、奇岩に自生する珍しい植物などにも着目し、動画を制作していく予定である。

3. コロナ禍に対応したまち歩きガイドシステムの構築

生き物の動画の制作によって、動画制作のノウハウを蓄積できたことから、当地区の既存の観光資源の魅力向上のための事業も行うことになった。大谷地区では、各所に奇岩や宗教関連施設が存在するが、解説が充実しているとは言い難い。一方、それを補うために、一般社団法人うつのみやシティガイド協会が大谷地区を中心にボランティアガイドを展開している。しかしながら、ガイドの人数に限りがあることや、ガイドのことを知らない観光客が大半である。

そこで当協会と連携し、各観光ポイントにおけるガイドを動画で撮影・編集し、YouTubeにアップすることで、ガイドなしでも大谷地区の魅力をすることができるようにした。現在、宇都宮市や事業者と協議し、解説動画のQRコード添付について交渉中である。しかし、動画よりも生の声やガイドに会ってみたいというニーズは必ず発生する。この動画をみて、シティガイドの話を聞きたいという観光客が増加することを期待している。今年度中を目途に10以上の動画を整備する予定である。

4. 動画で深まる大谷地区の魅力

生き物は、大谷地区に限らず、栃木県ではありふれた存在である。ところが東京に住む子どもたちにとっては、魅力的な観光資源である。大谷地区では、生き物のゆりかごである草木の繁茂は、ネガティブに捉えられてきた。その厄介者の自然を観光資源として捉えたところに本プロジェクトの価値がある。また、観光客には十分認知されていないガイドの知名度向上にも、生き物動画を制作したノウハウを活かして、寄与できると考える。このように、生き物やガイドなど大谷地区の資源を発掘し、動画にすることにより、大谷地区の新たな魅力を発信できた。